令和３年東置賜地区開催県中総体

ソフトボール競技　熱中症対応について

１　全体として実施すること

（１）近隣病院への緊急時の対応への依頼を行う。

（２）会場に養護教諭を配置し、体調不良者への応急処置ができる体制を整える。

（３）出場校に「熱中症事故防止について」の文書を配布し生徒への事前指導を行う。

（４）選手や役員の給水や健康観察をこまめに行う。

２　ソフトボール競技における対応

（１）向山公園ソフトボール会場、沖郷中会場とも冷房の利く部屋を確保し、休憩場所や救護室に充てる。

（２）各中学校へ**簡易テント**（休憩用）の用意、**帽子**の着用、**塩や梅干し**などの補食、**首や脇を冷やすタオル**の用意、**大量の氷**、**経口補水液**の準備をお願いする。

（３）通常よりも多くの給水タイムや休憩時間の設定を行い、競技役員や観戦者・補助員にもこまめな水分補給を呼びかける。

（４）ＷＢＧＴの計測を気候状況に応じて１時間おき、もしくは30分おきに計測する。

① ＷＢＧＴ記録用紙に球場担当養護教諭が記載し、球場主任に報告。

※養護教諭が処置を行っている場合は、球場主任が計測する。

② 球場主任は、会場責任者に報告する。会場責任者とは、県専門部長または地区専門部長。

③ ＷＢＧＴの数値が「厳重警戒」までは、こまめな水分補給と攻守交代時の５～10分程度の給水時間を設け対応する。また、守備時間が15分を超えた場合は５～10分の給水時間を与える。

④ ＷＢＧＴの数値が３１℃以上を示した場合。

Ⅰ　打者がアウトになり、ゲームが一時切れたときに中断する。

Ⅱ　会場の専門部長、競技委員長もしくは競技副委員長、球場主任、養護教諭が打ち合わせを持ち、試合再開の時間を設定する。

極力、暑くなることが予想される正午ごろ～午後２時を避け、試合開始の時間を設定する。中断した場合は、各校冷房の利く部屋を待機場所として提供する。

Ⅲ　試合が消化しきれない場合は、予備日への順延も柔軟に検討していく。

資料１　熱中症指数調査用紙

熱中症指数（WBGT）記録用紙

年　月　日　　会場＿＿＿＿＿＿　測定場所＿＿＿＿＿＿

時　刻	WBGT	温　度	湿　度	判　定
時　分	℃	℃	%	注意・警戒・厳重警戒・危険

運動に関する指針

気　温	WBGT	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31℃以上	運動は原則中止	WBGT31℃以上では、特別の場合以外は運動を中止する。特に子供の場合は中止すべき。
31～35℃	28～31℃	厳重警戒（激しい運動は中止）	WBGT28℃以上では、熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。運動する場合には、頻繁に休息をとり水分・塩分の補給を行う。体力の低い人、暑さに慣れていない人は、運動中止。
28～31℃	25～28℃	警　戒（積極的に休息）	WBGT25℃以上では、熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきぐらいに休息をとる。
24～28℃	21～25℃	注　意（積極的に水分補給）	WBGT21℃以上では、熱中症による死に事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21℃未満	ほぼ安全（適宜水分補給）、	WBGT21℃未満では、通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。

資料２　熱中症指数記録用紙

熱中症指数（WBGT）記録用紙

年　月　日　　会場＿＿＿＿＿＿　測定場所＿＿＿＿＿＿

時　刻	WBGT	温　度	湿　度	判　定
時　分	℃	℃	%	注意・警戒・厳重警戒・危険
時　分	℃	℃	%	注意・警戒・厳重警戒・危険
時　分	℃	℃	%	注意・警戒・厳重警戒・危険
時　分	℃	℃	%	注意・警戒・厳重警戒・危険
時　分	℃	℃	%	注意・警戒・厳重警戒・危険
時　分	℃	℃	%	注意・警戒・厳重警戒・危険
時　分	℃	℃	%	注意・警戒・厳重警戒・危険
時　分	℃	℃	%	注意・警戒・厳重警戒・危険
時　分	℃	℃	%	注意・警戒・厳重警戒・危険
時　分	℃	℃	%	注意・警戒・厳重警戒・危険
時　分	℃	℃	%	注意・警戒・厳重警戒・危険